

練馬区立光が丘四季の香小学校

学校だより



< 7月号 >

令和元年 7月2日

TEL 03-3977-2711

校長 高野博文

第102号

教育目標：自ら考える子・思いやりのある子・たくましい子

HP <http://www.shikinokaori-e.nerima-ky.ed.jp/>

個性化教育を考える

校長 高野博文

いよいよ7月、刻々と暑さを増しながら1学期を終えようとしています。春の遠足に始まり、5月には運動会もありました。6月には水泳の授業がスタートし、プールから元気な声が響いてきています。さらに6年生は7月8日から三泊四日の移動教室も予定されています。4月に子供たちがそれぞれにたてた目標を達成すべく、楽しみな夏休みまでの残された時間を有効に使い1学期のまとめを行っていきます。ご家庭におかれましてもお子様の成長とその過程を振り返りつつ、お子様を励ましていただきたいと思います。

さて、今から18年前にハーバード大学の心理学者、Howard・ガードナー博士が『個性を生かす多重知能(MI)の理論』という著書を出しています。そこでは、人の知能はIQのような単一のものではなく8つあり、その8つの知能を人は複合的に使っていて、この8つの知能の高低による凸凹から物事を学ぶ個性があらわれるそうです。つまり、一人一人得意とする学び方に違いがあるということです。

例えばある種の説明文があったとして、「言語的知能」の高い人は文章を読むことで理解ができ、「空間的知能」の高い人は図を描きながら理解でき、「身体的知能」の高い人は手足をつかって再現して理解できるということで、それぞれが自分に合った学習方法で学ぶことがよいそうです。

そうすると、「対人的知能」が高い人は他者の気持ちや感情を理解し、良好な関係を築く能力が高いことから、ディスカッション的な学習方法が向いていて、「内省的知能」が高い人は自分の内面に向き合い、思索したり、表現したりする能力が高いことから、一人で追求していく学習が向いているということになるのでしょうか。

今学校では、この学び方に焦点をあてて研究・研修を重ね日々の授業を考えています。現時点では、学級の子供たち一人一人に合った学習方法を毎時間全員に提供することは、人的配置、物理的条件、経済的条件等から不可能です。しかし、1つの単元や領域の学習に対して様々な学習スタイルを取り入れることは可能です。体験型学習や話し合い活動の充実、情報通信技術(ICT)や外部指導員の活用等です。そして、実際に学習している子供たち一人一人が自分の得意な学習方法を見つけることが最も重要なことと考えています。また、いくつか存在する知能を1つの能力と考えれば、これから鍛えていくこともできるはずですが、ご家庭でも是非お子さんの個性に合った学習方法を見つけて下さい。

来年度はプログラミング学習がスタートします。